

静岡県技術士協会 S C E A Shizuoka Consuluting Engineers Association
事務局連絡担当 齊藤 和夫 TEL/FAX 053-587-3438

会長：神立 信 専務理事：齊藤 和夫 会計：吉田 建彦 会報担当：寄川・水上・田中
会計振込先：静岡銀行磐田支店普通0980271 静岡県技術士協会 吉田 建彦(0538-34-5473)

会長就任にあたって

(常に、高い倫理観と技術士としての品格を!)

神立 信



この度、会長に選任されました機械部門の神立です。
これから2年間、会長職を務めさせていただきます。宜しくお願い致します。
就任に際しての所信を述べさせていただきます。

先日、月曜のNHKスペシャルという番組で「サイボーグ技術が人類を変える」というテーマで作家の立花隆氏が解説しておりました。内容は脳神経の科学的解明はどこ迄進んでいて、どのような利用の取組みがなされているかという内容でした。

脳の神経に流れる微小電流を使って事故等で失われた手足をメカ的に動く義手や義足を動かすというものや先天的に視覚のない人用に小型のビデオカメラの信号を脳の或る部分に送り、視覚を得るというものでした。これら技術は身体に何らかのハンディをもつ人には大変な恩恵をもたらすものです。

科学技術の進歩は反面、ある種の人達により悪用される可能性を秘めています。アメリカ軍では脳からの信号をインターネットを使って遠方にある兵器を直接操作する事も研究しています。遠方の画像をモニターで見ながら兵器を操作するのですが、キーボードを操作しなくても、頭で考えただけで敵を倒せる可能性を探っているようにも思われます。さらには脳の或る部分を刺激することにより攻撃的になったり、従順になったりする事を利用し、集団全体を人為的に支配する事も可能なようです。なぜそのような研究に手を染めるかという問いに、自分らがやらねば、他の邪悪な考えを持つ連中が必ずやる筈で、自分たちはそれを防ぐための研究をしているのであるとの姿勢です。まったく弱肉強食の世界は、我々には理解できない世界です。

この例を見るまでもなく我々技術分野を担う者に対しても、その技術や肩書きを、何らかの野望(たとえば企業や国家の偏った欲望)のために利用しようと誘惑してくる可能性は否定できません。

我々技術士は「技術士倫理要綱」にあるように常に修練・学習し、倫理観を高いレベルに保ち、技術士の品格を汚さないように努めるべきであると、この番組や昨今の建築強度の偽装事件を見るにつけ感じる次第です。

尚、日本技術士会中部支部では有志により、倫理の英語訳ETHICSの頭文字をとって名付けた「ETの会」という分科会活動があり、この活動の成果をまとめた「技術倫理と社会」という冊子が発行されました。この活動に関心の有る方で未だ日本技術士会に未入会の方は、是非入会して頂き、活動に参加される事をお奨めします。

2006年度定時総会開催

2006年4月29日(金) 於: クーポール会館(静岡市)
総会成立が確認され、以下の議案が審議、承認されました。

総会議案書[抄]

第1号議案 2005年度事業報告

- 1 会員の状況
 - (1) 会員数
2006年3月末現在(165名)
会員数: 個人会員数 150名、賛助会員 15社
 - (2) 入会者 7名
柴田 達哉、遠藤 誠、鳥居 利成、
山口 賀将、鈴木 敏弘、野々垣 智樹、
玉置 光男
 - (3) 退会者 13名
金沢 徹(逝去)、漆畑 八三、
田辺 美喜雄、鈴木 和喜、風間 敏光、
蓮池 昇、平山 傳治、吉田 章、
梅原 弘二郎、塩坂 邦雄、高柳 剛、
石井 崎夫、寺田 洋子
 - (4) 賛助会員 2社(退会)
三明技工、蓮池設計
 - (5) 休会者 7名
竹花 健、渡辺 良和、山本 秀洋、
伊藤 光雄、加納 照彦、大沼 俊一、
大古田 忠雄

2 2005年度定時総会

- 日時 2005年4月21日(木) 14:00~
場所 於 クーポール会館(静岡市)
議案 第1号議案 2004年度事業報告
第2号議案 2004年度決算報告
第3号議案 名誉会委員推戴の件
第4号議案 2005年度事業計画案
第5号議案 2005年度収支予算案
第6号議案 創立40周年記念事業案の審議
第7号議案 規約改正案の審議
第8号議案 その他
出席者 出席者 45名、委任状 46名、
計91(過半数 88)
記念講演 会員による講演
「自動車排ガス処理触媒と環境」
水上 友人会員(化学部門)

3 例会(CPDカウント)

- (1) 2005年度第1回例会
企業見学会
日時 2005年7月17日(日) 13時30分~
参加人数 20名
内容 SBSマイホームセンター展示モデルハウス見学と耐震等の技術講習
- (2) 2005年度第2回例会
40周年記念事業と併せて開催
日時 2005年10月15日(土) 14時00分~
参加人数 53名、中部支部より12名参加
会場 クーポール会館
内容 講演とパネルディスカッション
テーマ 「立ち向かおう迫り来る東海地震」

- (3) 2005年度第3回例会
日時 2005年12月10日(土) 15:00~
参加人数 32名
会場 ブケ東海(静岡市)
内容 「静岡県技術士協会の変革を考える」

- (4) 2004年度第4回例会
企業見学会
日時 2006年2月14日(火) 13時30分
参加人数 25名
内容 静岡ろ布有限会社見学
OMソーラー「地球のたまご」
場所 浜松市村櫛町

- 4 常任理事会
 - 5 理事役員会
 - 6 地区ブロック活動
 - 7 会報の発行
 - 8 事業
- } 内容省略

9 日本技術士会中部支部との交流

- 【木村 会長 出席】
- (1) 中部支部役員会(名古屋市2回、四日市市、岐阜市、静岡市)
2005年4月9日、6月25日、9月3日、10月15日、12月3日、2月4日
 - (2) 中部支部総会(名古屋市)
2005年5月28日
 - (3) 中部他県技術士会総会
2005年4月16日 愛知県技術士会
2005年4月23日 三重県技術士会
2005年5月21日 岐阜県技術士会
 - (4) 中部支部例会(名古屋市)
2005年7月23日(夏季)、
12月3日(冬季)、2006年3月4日(春季)等

【神立 副会長 出席】

- (1) 委員会出席
平成17年9月3日(岐阜市文化センター)
平成17年10月15日(静岡市アザレア)
平成17年12月3日(名古屋都市センター)
平成18年2月4日(中部支部会議室)等

第2号議案 2005年度決算報告

(1) 一般会計の部

(単位：円)

科 目	収 入		支 出	
	予算	決算	予算	決算
前年度繰越	497,749	497,749		
賛助会員	150,000	140,000		
日本技術士会助成金	50,000	50,000		
入会金	20,000	15,000		
年会費	1,328,000	1,010,000		
会合費(総会)	250,000	193,859	550,000	340,556
会合費(例会)	600,000	330,000	800,000	354,000
会合費(理事役員会)			350,000	234,503
事業費	600,000	635,750	500,000	543,528
事務所運営費			150,000	150,000
会報発行費			50,000	94,747
印刷費			230,000	143,464
通信費			160,000	173,302
各種活動助成費			80,000	71,144
雑収入/雑費	5	7	0	4,105
40周年事業費残金・援助金		135,602	0	100,000
会員名簿積立金/作成・発送			100,000	100,000
次年度繰越金及び予備金			525,754	698,618
計	3,495,754	3,007,967	3,495,754	3,007,967

(2) 基金特別会計の部 (単位：円)

項 目	科 目	予 算	決 算
基金の部	前年度繰越	2,010,000	2,010,000
	本年度増減	0	0
	合 計	2,010,000	2,010,000
利息の部	前年度繰越	364	364
	本年度収入	1,005	1,005
	残 高	1,369	1,369

(3) 40周年記念事業基金会計の部 (単位：円)

科 目	収 入		支 出	
	予 算	決 算	予 算	決 算
事業費	900,673	900,673		
一般会計からの援助金		100,000		
記念式典参加費	400,000	410,000		
祝儀		10,000		
預金利息		3		
会議費			80,000	79,167
交通費			200,000	211,800
通信費			6,000	6,690
消耗品費			20,000	22,236
記念式典参加費			150,000	145,215
懇親会			260,000	268,191
記念品			180,000	180,725
資料・表彰状等			20,000	19,670
講師謝金			50,000	50,000
手数料			2,000	1,680
記念誌			300,000	299,700
残金(一般会計へ)			32,673	135,602
合 計	1,300,673	1,420,676	1,300,673	1,420,676

会計監事 松尾 博孝、 森 稔夫

第3号議案 名誉会員推薦の件

以下の2名の会員を規約第6条(4)の規定により、名誉会員として推薦する件について、承認を得たい。
(技術士部門順)

山本 正男(建設部門 1931年1月19日生)
守屋 文二(経営工学 1930年11月6日生)

現在の名誉会員(21名)

乾 昇(機械)、加藤 幸男(機械)、
渡邊 三義(機械)、鷺山 秀彦(電気電子)、
金子 信一(化学)、磯部 俊夫(金属)、
芦沢 五一(建設)、久米松太郎(建設)、
高野 克巳(建設)、山田 康一(建設)、
横山 淳(建設)、吉田 章(建設)、
絹村 薫(上下水道)、松原繁左右(農業)、
伊藤 寿洋(経営工学)、高野剛(経営工学)、
竹花 健(経営工学)、本間雄二郎(経営工学)、
磐本 正夫(上下水道)、清水康夫(農業)、
松岡 一喜(森林)

第4号議案 40周年記念事業総括

1 実行委員の選出

委員長 : 神立 信(2004~2005年期
副会長)
副委員長 : 山下 久吉
会計担当 : 小杉 思主世
記念誌編集 : 稲葉 弘之(2004~2005年期
常任理事)
記念版名簿編集 : 久保嶋 勝巳(2004~2005年期
専務理事)
委員 : 吉澤 淳(2004~2005年期
副会長)
委員 : 大井 寿彦(2004~2005年期
常任理事)
委員 : 森 稔夫
委員 : 長嶋 滋孔
委員 : 吉田 建彦
委員 : 松本 亨
顧問 : 木村 芳正(2004~2005年期
会長)

2 記念式典開催の日程および会場

開催日 : 2005年10月15日
会場 : クーポール会館(静岡市)

3 実行委員会の開催(議事録はPDFファイルとして収録済み)

2005年4月30日の第1回から2006年1月21日の第9回まで計9回開催

4 結果報告

式典 来賓5名、会員参加53名
詳細は40周年記念誌を参照
収支報告
第2号議案 2005年度決算報告
10頁に掲載

第5号議案 常任理事・役員・地区理事の交代

次期2006年度・2007年度の新役員を次のように推薦し、承認を求める。

会長 神立 信
副会長 吉澤 淳、久保嶋 勝巳
専務理事 齊藤 和夫
常任理事(会計担当) 吉田 建彦
常任理事(会報担当) 寄川 壽明、
水上 友人、田中 保広
監事 高尾 和宏、斎 強志
理事
[東部] 安間 荘、山下 久吉、山本 正男、
稲葉 弘之、北本 達治、小川 誠滋
[中部] 石川 正人、海野 泰一、金澤啓吾、
佐藤 仁一、森 稔夫、山之上 誠、
岡井 政彦、牧内 弘明
[西部] 松影 泰三、吉澤 富士男、
石野 達佳、中田 洋輔、内田 弘、
長嶋 滋孔
顧問 渡邊 三義、加藤 幸男、
乾 昇、伊藤 和美、
清水 康夫、渡邊 佐一郎、
松本 文雄、守屋 文二、
木村 芳正

第6号議案 2006年度事業計画案

1 事業推進の方針

会員相互及び産業界・学会等との交流を推進し、会員の品位と実力を高めると共に地域社会・産業界の発展に寄与する。

2 事業計画

(1) 総会

日時: 2006年4月29日(土) 14:00~
会場: クーポール会館(静岡市)
議事: 2005年度事業・会計報告、
2006年度事業・予算計画等の審議
記念講演: 「静岡大学における産学官連携
の紹介」
静岡大学イノベーション共同研究センター
副センター長 木村 雅和教授

(2) 例会の開催

2006年7月(東部ブロック担当)
2006年10月(中部ブロック担当)
2006年12月(研修会、親睦会)
2007年3月(西部ブロック担当)

(3) 地域ブロックにおける自主活動の推進

(4) 技術分野の課題、一般的技術課題に対する研究活動の推進

(5) 役員会の開催

常任理事会、理事・役員会、地区役員会を
随時開催

(6) 会報の発行

年4回発行(6月、9月、12月、3月)

(7) その他

HPの活用(産学官連携イベント、研究開発
募集等の案内情報の提供等)

第7号議案 2006年度収支予算案

(1) 一般会計の部

(単位：円)

科 目	収 入		支 出	
	前年度決算	予算	前年度決算	予算
前年度繰越	497,749	698,618	0	0
賛助会員	140,000	140,000	0	0
日本技術士会助成金	50,000	50,000	0	0
入会金	15,000	20,000	0	0
年会費	1,010,000	1,328,000	0	0
会合費(総会)	193,859	200,000	340,556	400,000
会合費(例会)	330,000	600,000	354,000	800,000
会合費(理事役員会)	0	0	234,503	250,000
事業費	635,750	300,000	543,528	300,000
事務所運営費	0	0	150,000	150,000
会報発行費	0	0	94,747	100,000
印刷費	0	0	143,464	150,000
通信費	0	0	173,302	180,000
各種活動助成費	0	0	71,144	60,000
雑収入/雑費	7	5	4,105	10,000
40周年事業費残金・援助金	135,602	0	100,000	0
50周年事業費積立				100,000
次年度繰越金及び予備金	0	0	698,618	836,623
計	3,007,967	3,336,623	2,907,967	3,336,623

(2) 基金特別会計の部 (単位：円)

項 目	科 目	前年度決算	予 算
基金の部	前年度繰越	2,010,000	2,010,000
	本年度増減	0	0
	合 計	2,010,000	2,010,000
利息の部	前年度繰越	364	1,369
	本年度収入	1,005	1,005
	残 高	1,369	2,374

(3) 50周年記念事業基金会計の部

(単位：円)

科 目	収 入		支 出	
	前年度決算	予 算	前年度決算	予 算
前年度繰越	0	0	0	0
一般会計からの繰入	0	100,000	0	0
事業費	0	0	0	0
合 計	0	100,000	0	0

(4) 会員名簿作成積立金の部

(単位：円)

科 目	収 入		支 出	
	前年度決算	予 算	前年度決算	予 算
前年度繰越	400,000	400,000	0	0
本年度の積立/支出	0	0	0	400,000
合 計	400,000	400,000	0	400,000

第8号議案 その他

- 1 静岡県技術士協会ホームページの改良・刷新について
- 2 (社)日本技術士会中部支部活動との連携体制について

【静岡大学における産学官連携】

講師：静岡大学イノベーション共同研究センター 副センター長 木村雅和教授

独立法人化が契機となり大学のあり方が急速に変化しております。本年度の総会では静岡大学イノベーション共同研究センター（以下IJRC）より副センター長の木村雅和教授、コーディネータの斉藤久男様、藤田武男様をお招きしお話を伺いました。冒頭で全国の国立大学を職員数、費用、学生数などで比較分類し静岡大学の位置づけを行った解析結果が示されました。大変興味深いものでしたが、あまりにホットなデータのため会報で紹介できないのが残念です。

【静岡大学の概要（平成17年5月1日現在）】

学部数	6
（人文、教育、情報、理学、工学、農学）	
大学院数	
修士課程	5
博士課程	3
専門職学位課程	1（法科大学院）
研究所	1（電子工学研究所）
学生数	
学 部	9 5 6 7 人
修士・博士前期課程	1 3 1 5 人
博士後期課程	1 6 2 人
専門職学位課程	3 1 人
外国人留学生	2 9 5 人
教職員数	1, 2 2 8 人
予算	約 1 6 6 億円



静岡キャンパス

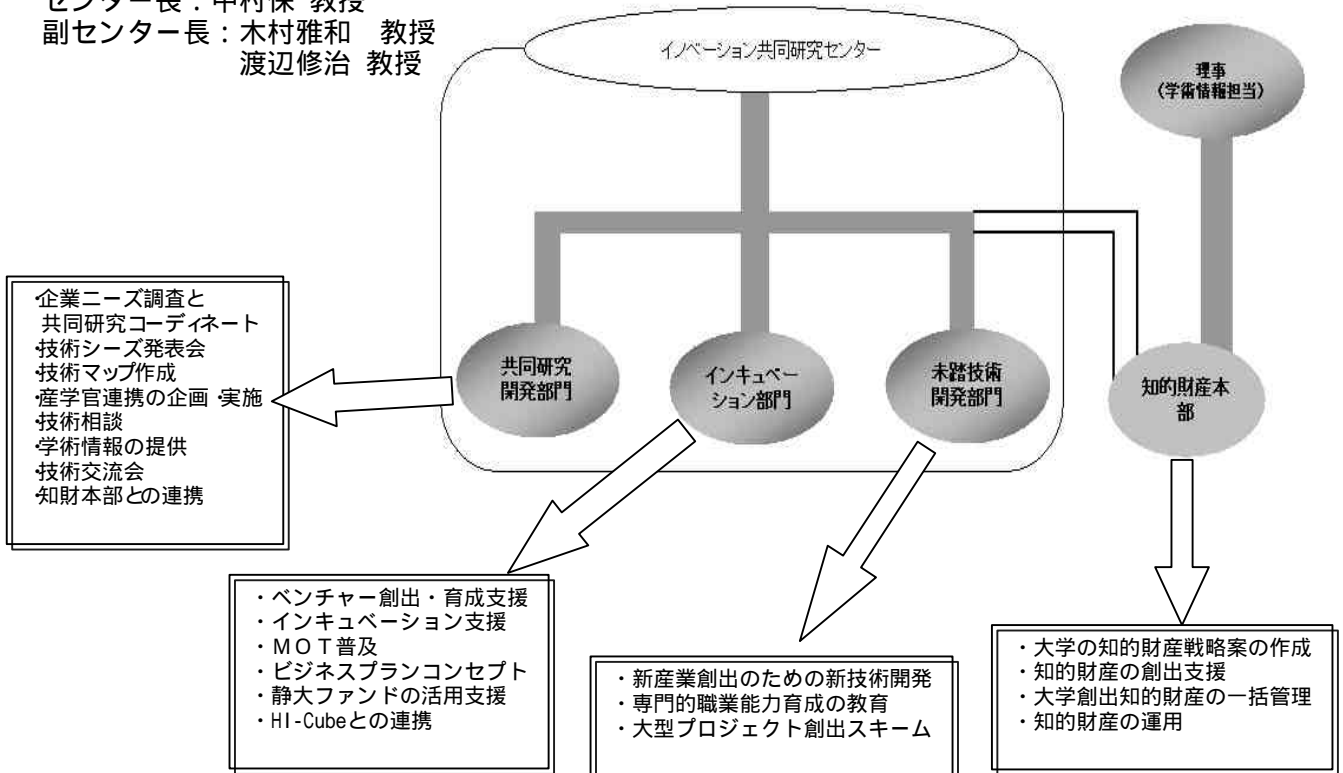


浜松キャンパス

【産学連携組織】

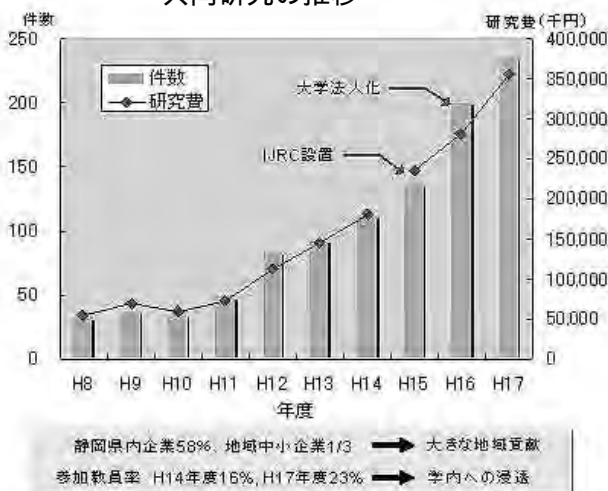
IJRCの組織を右下に示します。

センター長：中村保 教授
副センター長：木村雅和 教授
 渡辺修治 教授



【産学連携の実績】

共同研究の推移



静大発ベンチャー

NO.	企業名	設立年月	静大発VB 定義(起因)	備考
1	有限会社 カラビナシステムズ	2000年6月	人材移転型(学生起業)	独立起業
2	有限会社 静岡アカデミックリサーチ	2002年4月	人材移転型(学生起業)	
3	有限会社 池田電子工学研究所	2000年3月	技術・人材移転型(元教員)	
4	高庄プロセス開発 株式会社	2003年6月	技術・人材移転型(現教員)	静岡大学 インキュベーション 施設利用
5	株式会社 SPD研究所	2004年6月	技術・人材移転型(元教員)	
6	SAW&SPR-Tech 有限会社	2004年10月	技術・人材移転型(元教員)	
7	デジタルセンセーション 株式会社	2004年10月	技術・人材移転型(現教員)	
8	電子システムデザイン 株式会社	2005年6月	技術・人材移転型(元教員)	
9	株式会社 ブロックマンラボ	2006年2月	技術・人材移転型(現教員)	静大発 TLO活用
10	セサミテクノロジ株式会社	2006年3月	技術・人材移転型(現教員)	
11	ロジカル 株式会社	1984年9月	出資型、技術移転型	
12	フルサイズゲージ 株式会社	1988年10月	出資型、技術移転型	
13	株式会社 スペースクリエイション	1987年2月	技術移転型(TLO活用)	
14	株式会社 サイエントックス	1993年12月	出資型、技術移転型	
15	株式会社 アローセブン	1965年11月	出資型、技術移転型	

【産学連携の新しい取組み】

企業との共同研究のみならず金融機関の連携、海外との連携、自学内の連携、ベンチャーの支援も行っている。
また本年7月に事業施設Hi-CUBEが浜松キャンパスに隣接して竣工されベンチャーのための安価な事務所などが提供される。

ベンチャー創出・育成、共同研究等による新事業創出
インキュベーション・ルーム 47室
3,010平方メートル
中小企業基盤整備機構、浜松市、静岡大学等



【静岡大学の活用】

共同研究、受託研究、技術移転、大学発ベンチャー、奨学寄付金など様々な活用する方法がある。
企業側から見ると、シーズの抽出、人的資源の補填、課題解決の助っ人として捉える事ができる。

【問い合わせ先】



Innovative Joint Research

静岡大学イノベーション共同研究センター
www.cjr.shizuoka.ac.jp

木村雅和 (専任教員)
斉藤久雄 (産学連携コーディネータ)
藤田武男 (産学連携コーディネータ)

静岡大学イノベーション共同研究センター
〒431-8561 静岡県浜松市城北3-5-1
TEL : 053-478-1706, 1705
FAX: 053-478-1702
E-mail: ijrc_tech@cjr.shizuoka.ac.jp

検討のみに終わっても構いません
まずは気軽にトライしてください！

注意点

1. 産学連携が目的でなく、課題達成が目的
2. 課題・問題が存在すること
(但し、研究課題として煮詰まっている必要はない)
3. 多少、時間を要しても良いものであること
4. 節目に、共に検討できる担当がいること
(オフィシャルには、双方に研究者が存在することが前提)
5. 研究に応じた経費が必要
6. 必ずしも適任教員が見つからない場合もあり得ること。
7. 他

1. 新執行部発足



田中 会報
寄川 会報
水上 会報
吉澤 副会長
神立 会長
吉田 会計
久保嶋 副会長
木村 顧問

左の写真のメンバーで、今後2年間、会の運営を行います。よろしく申し上げます。

2. 静岡県技術士会として正式に認可される。

去る、5月11日に日本技術士会本部において静岡県技術士会の設立が正式に承認されました。今後は、静岡県技術士協会の中に「日本技術士会中部支部 静岡県技術士会」があるということになります。

会費納入のお願い

会計担当

2006年度会費の納入がお済でない会員の皆様、お早めに納入くださいますようお願いいたします。

休会しているおつもりで未納のままのケースもあるようですが、会の運営に支障をきたします。早急に下記口座へお振込み下さいますよう、お願い申し上げます。

会計担当理事

吉田 建彦

会費振込先：静岡銀行磐田支店普通0980271
静岡県技術士協会
吉田建彦(0538-34-5473)
一般会員： 8,000円
名誉会員： 4,000円
賛助会員： 10,000円

静岡大学の技術シーズの情報提供

静岡大学イノベーション共同研究センターに連絡して、名簿データベースに登録すると、定期的に研究テーマの発表会や講演の案内等がメール配信されます。

2005年度版 会員名簿の一部訂正

先に配布しました会員名簿に一部誤植がありました。下記のとおり訂正願います。
訂正箇所：賛助会員 1頁
株式会社 ツルタコンサルタント TEL 054-261-6500(誤) 054-261-1555(正)
お詫びします。

編集後記

新執行部としての第一号をお届けいたします。

編集にあたって、平成17年度第3回例会「静岡県技術士協会の変革を考える」の討論要旨を読み直してみました。日本技術士会との関わり方、協会会員のメリット、協会ホームページの充実など協会の変革要望は多岐多様にわたっています。また、技術士会報としては技術情報の掲載が少ないという外部意見もありました。これらの貴重な意見を参考にして、「魅力ある協会づくり」の一助となるべく会報を通して工夫を凝らしていければ、と考えています。

会員皆様への投稿依頼についてご理解、ご協力をお願い致します。

(寄川)